

園長だより

ぽかぽか陽気に春の訪れを実感します。

めろん組の卒園式から早、一週間が過ぎました。めろん組は式後も登園して生活が続きます。式では涙を流し感慨一入でしたが気持ちをリセット、保育園最後の日まで、たくさん遊び、残された日を充実した日々できればと思っています。

卒園式を終えて

－ 涙の中に隠されているもの

厳粛な雰囲気の中、いつもと違う空気が流れている会場、何度か練習をして臨んだ卒園式、子ども達にとって、はじめての事、それぞれが練習を通じて、当日のイメージを描いていました。

でも当日を迎え、今まで描いていたイメージと異なることがあったと思います。緊張感はそのひとつ、今まで体験した緊張感を☆☆とたとえると当日は☆☆☆☆位に感じたことでしょう。

でも子ども達はそのイメージの**ずれ**をみごとに修正し、おませな顔で着座し淡々と式に臨んでいました。

ひとり、ひとりの育ち、成長を実感できる瞬間でもあり、この節目に出逢える、立ち会えることに幸せを感じ涙がにじんできます。

一度、涙腺が開いてしまうと、おとなしくはしてくれません。子ども達の起こすひとつ、ひとつのしぐさや行動につられるように涙が湧

き出てきます。

子ども達との生活は楽しいことばかり、いつも笑顔が絶えず、充実した日々を送れていると思っている保育者は多くいることでしょう。

保育者の多くは子ども達との生活に楽しさを感じる。やりがいも感じる。いろいろとポジティブな感情を抱ける場面にであえる。

ただ大半の保育者は好きで選んだ道だが苦労の連続である。子ども達と生活を共にするのは、大きな責任を背負う、いや、背負わせていただいている。子ども達と離れたときに子ども達のことを思い仕事に没頭する。頭の中はいつも子どものことでいっぱいである。

苦労の連続と言いましたが訂正します。厳密には「ありがたい苦労」の連続と言いかえます。

目の前にいる子ども達のことを思い、考え、保育の生業を考える。

子ども達のことを思い、考え、子ども達と歩んでいる保護者とかかわり、対話する。良い時もあれば、心に響く意見や助言もあります。

子ども達との生活の陰には、多くの「ありがたい苦労」が存在しています。

「ありがたい苦労」が報われ、子ども達のためにやってきて良かったと思える瞬間、式中にみせた、それぞれの涙の中には子ども達の成長を純粋に喜び、うれしさに満ち溢れたもの、またそれぞれが今日まで子ども達に関わる生活の中で感じた様々な感情が涙となり流されていきます。

毎年、慣例的に行われる式ではあるもののそれぞれの年度には様々なエピソードがあり大切に取り組み、式は挙行されます。

また1年先も卒園式がやってくる。感慨一入、これから先、一喜一憂する生活からエピソードが綴られていくことでしょう。

めろんぐみさんが在園中に織りなしてくれたエピソードの数々、しっかりと心に刻んでおきます。



1年の計は元旦にあり

1年の計は元旦にあり、正月早々によく言われる言葉です。保育の年度始めは4月、そろそろ1年の始まりが訪れます。

「1年の計は元旦にあり」のことばに物心ついた頃から感化されている私、とにかく年の初めに様々な計画を立てていました。子どもの頃は「掛け算九九をはやく覚える」「無駄遣いをしない」「野球が上手になる」等々、半世紀近く経ち、振り返ってみると、目標達成率は低い、この上なく低い、継続することが苦手で集中力が続かぬ子どもか、それともあきらめの早い子どもか、いずれにせよ目標を達成しようとする意欲を持たなければいけなかったのですが・・・

現在はどうでしょう。子どものころからの癖はなおりません。毎年、あれも、これもと計画

を立てる。目標を立てる。最近の目標は歳を増すごとに変わってきました。「血圧を下げる」「一日1万歩以上歩く」など健康にまつわることばかり、身の程しらずとわかっている。「63歳までは野球をする」と10年も先の目標を立てているわけです

仕事のことは私的以上にあれも、これも、考えます。大好きな子ども達のことを考えると頭の中がくるくると馳せめぐります。

園長だよりを発刊してから事あるごとに子どもへの思いや願いを伝えてきました。

「子ども達の生活は自治である」その年齢なりにそれぞれが尊重され、ひとりの人間として丁寧にかかわらなければなりません。やりたいこと、やってみたいことを十分取り組ませてあげられる環境を作らなければなりません。大人の援助、導きはあるが子どもなりに活動できる環境が望まれます。

目の前にいる子ども達が何を求め、何をしたいのか、育ちを保障するにはどんな生活を構築していくことが必要かを考え、実際のアクションにつなげなくてはなりません。

どんな子どもに育ってもらいたいのか、どんな経験をさせたいのか、しっかりと目標を持つことが要求されます。

目標が一つでも叶うよう日一日を大切に自己の検証を行い保育を営んでいくことが必須の課題と考えています。